

1 会議の名称

平成29年度岩手県立住田高等学校第1回学校評議員会

2 会議の構成

(1) 学校評議員

菅野 英子 氏	住田町社会福祉協議会
金野 康己 氏	東海精密工業株式会社岩手事業所次長
佐藤 香奈 氏	会社員
佐藤 清司 氏	会社員
佐藤 智一 氏	住田町立世田米中学校長

(2) 学校職員

鈴木 広樹	校長
伊藤 正則	副校長
利府 崇	教務主任
三浦 天豪	総務主任
松田 隆宏	生徒指導主事
西出 和久	進路指導主事

3 会議の開催

平成29年5月19日（金）14：40～15：35 〔住田高等学校校長室〕 評議員4人、学校職員5人

4 会議の次第

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 平成29年度学校経営計画について
- (4) 学校概況について
- (5) 意見交換
- (6) その他
- (7) 閉会

5 会議の概要

(1) 校長挨拶

今年度は33名の新生を迎えスタートした。本校は、小規模校ではあるが、アーチェリー部や野球部などをはじめ、部活動も盛んである。文部科学省指定の研究開発学校事業が今年度から始まり、来年度は周年行事も控えている。本日は今年度の取組について、皆様から忌憚無きご意見を頂戴したい。

(2) 意見交換

- ア 評議員 スマートフォンのトラブルやいじめの被害にあった生徒はいるのか。
 学校側 昨年度、いじめ案件があった。
- イ 評議員 通学費の補助など、町からの独自の支援を続けていただいて、今後も生徒確保に係る取組を進めてほしい。また、様々な関係者と協力して、生徒の輝く姿を地域に発信し続けてほしい。
 学校側 了解した。

- ウ 評議員 今後、住田高校をどのようにPRしていくのか。
学校側 高校説明会で各中学校を回り本校について説明する機会や、町教委とともに各中学校を回り説明する機会もあり、これらを十分に活用していく。
- エ 評議員 今後の取り組み方針の評価指標の数字に関して、どのように設定したのか伺う。
学校側 学校の連続性を考慮し、昨年度のものを参考に決めさせていただいた。
様々な評価指標の内、PTA総会への出席率については、先日、総会が開催されたので、達成できたかどうかについては、既に結果が出ている。残念ながら、総会当日は管内各中学校で運動会が計画されていたこともあり、総会への出席率は低く、評価指標を達成できなかった。出席率を向上させるためにも、今後、PTA総会の日程については、管内中学校の運動会等の日程も踏まえ、他の関係者とも調整して日程を設定する。
- オ 評議員 以前は、海外からのホームステイの受け入れをしていたが、現在、受け入れをしていないのか。
学校側 震災を機に、海外からの受け入れはなくなった。
- カ 評議員 住田高校生徒の挨拶や、積極的なボランティアへの取組はとても素晴らしいものがあるので、今後も継続して行ってほしい。
学校側 了解した。
- キ 評議員 住田高校の生徒に係るスマートフォン使用の現状と、使用時間の制限等、指導のあり方についてはどのようなになっているか伺う。
学校側 ほとんどの生徒がスマートフォンを所持し使用している。使用時間の制限等については、先日開催された高等学校生徒指導連絡協議会気仙・釜石支部において、家庭に協力を要請したいという話が出ていたが、まだ支部管内において、本格的な動きになっていない状況である。
- ク 評議員 研究開発学校事業に係る文部科学省からの説明の中に、研究成果は子どもの作品、子どもの言動の記録、テストやアンケート結果などを直接示していただきたい、というものがあった。今後、本事業においては、新たな教育課程の研究が必要になってくる。本事業については、平成29年度から32年度までの4年間となっており、4年後の子どもの姿を考えたものを作っていく必要があるように感じている。
学校側 本校においても同様の認識である。

(3) その他

次回の開催日程は、平成30年2月19日（月）午後の予定であることを確認した。